

「高尾森林ふれあい推進センター協定イベント」

大学生日影沢学習施設で炭焼体験！

-炭焼体験&野外体験イベント報告-

11月27日、高尾森林ふれあい推進センター協定イベントとして大学生を対象に炭焼体験&野外活動のイベントを高尾山国有林の自然学習施設で実施しました。今回も申し込まれたのは、明星大学環境システム科・吉澤秀治教授の1年生47名で、学生にとっては単位勘定となる立派な授業です。エコロジー村としては、このような研修を担う役割を果たすようになって今年で5年目になります。

体験は、10:00~15:00までの短い時間にも関わらず、「炭焼」「自然観察」「飯ごう炊飯」「竹食器製作」など盛りだくさんでした。参加した学生は、それぞれ2グループに分かれ、まずAグループはエコロジー村スタッフの森林インストラクターの資格も持つ萩田實氏に引率され、いろはの森の植生や高尾山の森林資源についての問答を交えながら「自然観察」を行いました。一方Bグループは、早速炭焼体験に入り、まずは竹割、節取、窯詰までの一連のドラム缶炭焼における準備作業を、これもエコロジー村スタッフの炭焼講師の三森克人、正司知久両氏の指導のもと行いました。

AグループとBグループは、各プログラムを交互に行ったあと、野外活動が専門の同じくエコロジー村スタッフの小田健司氏の指導のもとで、「飯ごう炊飯」と「竹食器制作」の体験を行いました。今回は12個の飯ごうを班(米約6合)ごとにドラム缶半割グリルを使用。また各自、竹を利用したマイ箸・竹食器作りも実施しました。自分たちで作ったご飯と食器で食事をとるという体験は、学生にとっては意外と新鮮な活動でした。さすがに季節は初冬、日影沢の気温も市街地と違い相当に低い温度にも関わらず、参加学生の熱気はそれを上回るものでした。食事中も学生とエコロジー村スタッフとの懇親は続き、炭焼窯から立ち上る煙の観察なども行いました。

今回の最後の体験項目は、「出炭」です。ドラム缶炭焼とはいえ、炭化終了まで完全に行うとなると10時間以上は必要になります。残念ながら時間の都合上自分たちの焼いた窯の炭の出来具合までは観察できませんでしたが、同じ日影沢で炭焼活動を行っている団体さんのご好意により、事前に焼いた炭がまだ出炭することなく残っていたので、これの、「窯出し(出炭)」を実施しました。固唾をのむ中、ドラム缶窯の蓋が開かれ、綺麗な竹炭が出てきました。自分たちの焼いた炭ではありませんでしたが、炭焼の工程を理解するには十分な「窯出し」でした。

学生は、一つひとりの課題を自分で考え体験しながら考察していました。およそ5時間程度の学習時間でしたが、学生にとっては非常に充実した有意義な“授業・講義”だったようです。また、多くの学生から炭焼や森林資源に関する質問や意見も頂き、体験終了後、

担当の吉澤秀治教授より、「学生たちにとって非常に意義ある活動でした」というコメントも頂きましたが、我々スタッフにとってもやはり意義ある活動でした。本活動は引き続き来年度も新しい学生を迎えて実施予定です。



【自然観察学習】



【竹割体験】



【飯ごう炊飯】



【炭焼煙観察】



【みんなで記念撮影】